

地域づくり 計画 「あさ夢プラン」

「美しく」「楽しく」「人にやさしい」まち 厚狭
～ずっと住み続けたいまちに～



美しい山と川を守り続ける

厚狭地区では、地域課題の解決に向けた取組を持続的に行う組織である地域運営組織「厚狭地区運営協議会」を設立します。地域づくり計画はその取組を具体的に定めた計画です。令和5年6月に第1回のワークショップ、令和6年3月に全世帯を対象としたアンケート、6月に第2回のワークショップを行い、厚狭の良さや課題、良さを生かしたり課題を解決したりする取組のアイデア等の意見を集約してきました。「ずっと住み続けたい」と思えるまちにするため、できるところから実現していきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

厚狭地区運営協議会

人口統計データから見た厚狭の状況

厚狭地区の人口は現在、約1万人ですが、1年に50名(0.5%)程度ずつ減少を続けています。厚狭のもつ魅力から市全体の減少率の1/2程度には抑えられていますが、減っていることに変わりはありません。年齢階層別の人口を見るとやはり少子高齢化の兆候がうかがえますが、40代とその子ども世代の10代にもピークが見られるところに厚狭の特徴(強み)があります。

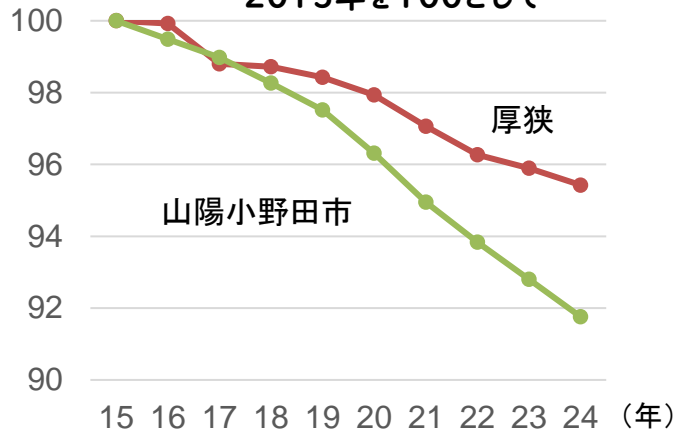
地域課題の解決のため「地域住民が主体的に考え、地域でできることは地域でやる」ことが求められていますが、この現役世代や若者世代の力を結集できるかどうか、5年先、10年先の地域づくりのカギになると言えます。

アンケートから見た厚狭の課題

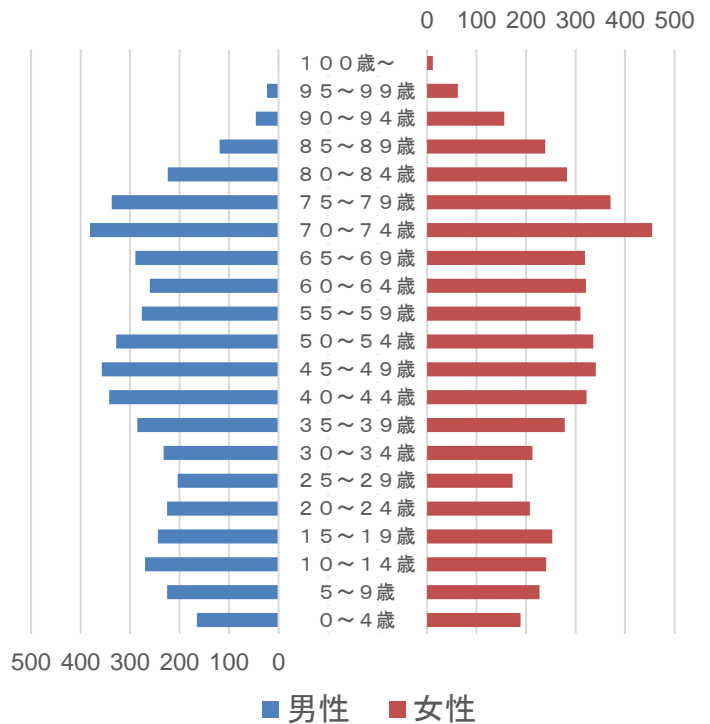
問. 日常生活で困っていることや不安に感じていること(上位12項目を抜粋)

高齢化が進んでいること	479
災害への備えや避難に関すること	274
自治会や団体の役員のみならず	258
空き家が増えていること	251
健康面への不安があること	214
庭作業などの軽作業	202
農地・山林の維持管理	199
医療体制に不便を感じる	136
生活道路などの環境整備	131
仲間と気軽に集まる場所がない	124
買い物・通院などの移動手段	111
近くにコンビニ・スーパーがない	107

厚狭地区の人口の推移
2015年を100として



厚狭地区の年齢階層別人口
2024年3月



計画の実現に向けて ～新しい人材の参画を求めています～

アンケートやワークショップに参加された方々の地域づくりに関するアイデアをもとに「地域づくり計画」を作成しました。「今後考えられる取組」の中には、すぐには実現できそうにない取組もありますが、あえて計画に盛り込んでいます。めざす厚狭の将来像に必要なからです。今後、実現に近づけるためには、先進事例を研究したり、ノウハウのある新しい人材や団体の参画を進めたりすることも必要になってくると思われます。計画に賛同して参加したいという方、計画を実現するノウハウのある方の情報をもっている方、ぜひ、連絡をお願いします。



<ものみん>
厚狭小学校
オリジナルキャラクター

令和6年9月 厚狭地区運営協議会 策定

【問い合わせ先】 厚狭地域交流センター
TEL (FAX) 0836-72-0507
MAIL asa-center@city.sanyo-onoda.lg.jp

地域づくり計画「あさ夢プラン」

地域づくりスローガン		美しく 楽しく 人にやさしい まち 厚狭 ～ずっと住み続けたいまちに～					
部会 (分野)	テーマ	地域の現状（良さと課題）	既存の取組	今後考えられる取組	実現の 時期	めざす将来像	主な推進団体
自治	防犯 防災・減災 交通安全 通学路の見守り 生活道路 環境美化（河川清掃） 空き家対策	○治安がよい。 ○自然が豊か。景観がよい。 ○交通の便がよい。 ○日常の買い物に困らない。 ●水害が心配。災害への備え。 ●避難所の整備（冷暖房等） ●自治会や団体の役員のなり手が少ない ●空き家が増えている。 ●耕作放棄地の増加。草刈り。 ●生活道路などの整備。 ●街灯が少ない。	海岸清掃（5月） 河川清掃（7月） 防災フォーラム（7月） おもてなし大作戦（8月） 防災訓練（10月） 人権教育研修会（2月）	・災害時の実効的な避難（支援）マニュアルを各自治会ごとに作成する。 ・「河川清掃」や「おもてなし大作戦」に若い世代の参加を促進する。 ・空き家を改装して子どもや高齢者が集える場所にする。（その研究） ・空き家や農地を無償提供し移住促進。（その研究） ・物見山公園（菖蒲園）の整備と活用。市と地区が担うべき役割を整理し、取組を検討する。	A A C C B	美しく安心・安全で快適に暮らせるまち	○自治会長連絡会 ○防災士会 ○交通指導員
福祉	健康づくり 高齢者福祉 子育て支援	○人が優しい。人情に厚い。 ○ボランティア意識が高い。 ○独居在宅者等を支援する仕組みがある。 ●高齢化が進んでいる。 ●ひとり暮らしの高齢者の支援。（庭作業・電気器具の修理などの軽作業、ちょっとした相談） ●健康面に不安がある。 ●大きな病院がない。 ●買い物・通院などの移動手段に困る。 ●コミュニティバスやデマンド型交通が不便。	三者交流会（5月） 敬老会（9月） 独居在宅者訪問活動（12月） ふれあい会食会（3月） （チューリップの会）	・草刈り、除草等の有償ボランティアの実施。 ・高齢者の移動支援や買い物支援（移動販売）のあり方についての研究 ・児童クラブに入れないうちの子どもの安全な居場所づくり（平日や長期休業中）の研究。	C C C	子どもから高齢者まで誰もが心豊かに暮らせる人にやさしいまち	○福祉員の会 ○自治会長連絡会 ○民生児童委員協議会
交流	交流 まつり イベント スポーツ振興 歴史・文化 学校・園との連携	○歴史と（文化）伝統がある。 ○季節ごとにまつりがある。 ○地域内の人のつながり（が強い）。 ○あいさつを返す人が多い。 ○東京理科大学新学部開設の構想。 ●イベントへの協力者・参加者が少ない。（特に若い世代） ●文化の維持、継承が困難になりつつある。 ●駅周辺の賑わい。 ●世代間交流が少ない。 ●仲間と気軽に集まる場所がない。 ●子どもが遊べる公園・施設が少ない。 ●地域の特産物が少ない。	市民運動会（5月） 球技大会（6月・9月） 納涼祭（8月第1土曜日） センターまつり（10月） カローリング大会（11月） 初日を迎える会（1月） どんど焼き（1月） あいさつ運動（通年）	・「みんなでつくろう市民運動会」を開いて運動会を楽しくするアイデアを考える。 ・SNSを活用し各イベントの周知を徹底する。（その研究） ・厚狭の史跡を三世代（親子）で巡るウォークラリー（例）を創設する。 ・「厚狭ならばコレ」といった名産品の開発！ ・「ものみん」や「ねたろう」のキャラクターの活用。 ・小中高の共通スローガン「誰かのために何かのために」を活かしたイベント（クリーン作戦等）→小中高生が企画 ・厚狭地区の観光マップの制作。	A A B C B B C	スポーツや伝統文化を通して様々な世代が交流する活力のあるまち	○体育振興協議会 ○福祉員の会 ○自治会長連絡会 ○婦人会 ○老人クラブ連合会 ○利用者協議会 ○食生活改善推進協議会 ○小中学校PTA ○子ども会 ○交通指導員 ○青少年育成協議会 ○民生児童委員協議会 ○幼稚園・保育園・小中学校